人間論［英］				単位数	2単位
授業コード	10005	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	崎川　修、岡田　紅理子、山根　道公				
時間割備考	1年次 英文対象				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー45%	1／2
2	期末レポート55%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 導入：「人間論」で何を学ぶか（崎川）
2. 特別講義：聖ジュリー・ビリアートと建学の精神（津田葵学長）
3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司）
4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（岡田）
5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（岡田）
6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（岡田）
7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（岡田）
8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根）
9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根）
10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根）
11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根）
12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川）
13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川）
14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川）
15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川）

定期試験

期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。

試験のフィードバックの方法

準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間

（予習）講義内容および対応する教科書の内容等を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。（30分）
（復習）講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。（30分）

必携書（教科書販売）

『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）,日本聖書協会,ISBN978-4-8202-1202-7
『新・私たちの人間論』ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）,大学教育出版,2022年,ISBN978-4-86692-199-0

必携書・参考書（教科書販売以外）

〈参考書〉
授業内で指示する。
必要に応じて適宜プリント資料等を配布する。

オフィスアワー

授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。

連絡先

履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。

sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川）
okada@m.ndsu.ac.jp（岡田）
yamane@m.ndsu.ac.jp（山根）

留意事項

・1～3回目の授業は、学部ごとに合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、3名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。
・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。
・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらう。主体的に授業に臨むこと。
・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論［人］				単位数	2単位
授業コード	10015	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	崎川　修、岡田　紅理子、山根　道公				
時間割備考	1年次 人間対象				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー45%	1／2
2	期末レポート55%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 導入：「人間論」で何を学ぶか（崎川）
2. 特別講義：聖ジュリー・ビリアートと建学の精神（津田葵学長）
3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司）
4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（岡田）
5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（岡田）
6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（岡田）
7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（岡田）
8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根）
9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根）
10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根）
11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根）
12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川）
13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川）
14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川）
15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川）

定期試験
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）講義内容および対応する教科書の内容等を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。（30分） （復習）講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。（30分）
必携書（教科書販売）
『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）,日本聖書協会,ISBN978-4-8202-1202-7 『新・私たちの人間論』ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）,大学教育出版,2022年,ISBN978-4-86692-199-0
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考書〉 授業内で指示する。 必要に応じて適宜プリント資料等を配布する。
オフィスアワー
授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。 sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根）
留意事項
・1～3回目の授業は、学部ごとに合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、3名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論［児］				単位数	2単位
授業コード	10045	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	岡田　紅理子、崎川　修、山根　道公				
時間割備考	1年次 児童対象				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー45%	1／2
2	期末レポート55%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 導入：「人間論」で何を学ぶか（崎川）
2. 特別講義：聖ジュリー・ビリアートと建学の精神（津田葵学長）
3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司）
4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（岡田）
5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（岡田）
6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（岡田）
7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（岡田）
8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根）
9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根）
10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根）
11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根）
12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川）
13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川）
14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川）
15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川）

定期試験
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）講義内容および対応する教科書の内容等を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。（30分） （復習）講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。（30分）
必携書（教科書販売）
『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）,日本聖書協会,ISBN978-4-8202-1202-7 『新・私たちの人間論』ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）,大学教育出版,2022年,ISBN978-4-86692-199-0
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考書〉 授業内で指示する。 必要に応じて適宜プリント資料等を配布する。
オフィスアワー
授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。 sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根）
留意事項
・1～3回目の授業は、学部ごとに合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、3名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論［現］				単位数	2単位
授業コード	10055	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	岡田　紅理子、崎川　修、山根　道公				
時間割備考	1年次 現社対象				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー45%	1／2
2	期末レポート55%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 導入：「人間論」で何を学ぶか（崎川）
2. 特別講義：聖ジュリー・ビリアートと建学の精神（津田葵学長）
3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司）
4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（岡田）
5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（岡田）
6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（岡田）
7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（岡田）
8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根）
9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根）
10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根）
11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根）
12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川）
13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川）
14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川）
15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川）

定期試験
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）講義内容および対応する教科書の内容等を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。（30分） （復習）講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。（30分）
必携書（教科書販売）
『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）,日本聖書協会,ISBN978-4-8202-1202-7 『新・私たちの人間論』ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）,大学教育出版,2022年,ISBN978-4-86692-199-0
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考書〉 授業内で指示する。 必要に応じて適宜プリント資料等を配布する。
オフィスアワー
授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。 sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根）
留意事項
・1～3回目の授業は、学部ごとに合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、3名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論［食］				単位数	2単位
授業コード	10065	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	山根　道公、崎川　修、岡田　紅理子				
時間割備考	1年次 食品対象				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー45%	1／2
2	期末レポート55%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1. 導入：「人間論」で何を学ぶか（崎川）
2. 特別講義：聖ジュリー・ビリアートと建学の精神（津田葵学長）
3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司）
4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（岡田）
5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（岡田）
6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（岡田）
7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（岡田）
8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根）
9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根）
10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根）
11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根）
12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川）
13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川）
14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川）
15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川）

定期試験
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）講義内容および対応する教科書の内容等を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。（30分） （復習）講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。（30分）
必携書（教科書販売）
『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）,日本聖書協会,ISBN978-4-8202-1202-7 『新・私たちの人間論』ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）,大学教育出版,2022年,ISBN978-4-86692-199-0
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考書〉 授業内で指示する。 必要に応じて適宜プリント資料等を配布する。
オフィスアワー
授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。 sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根）
留意事項
・1～3回目の授業は、学部ごとに合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、3名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

人間論［日］				単位数	2単位
授業コード	10085	科目ナンバリング	100A1-1000-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	山根　道公、崎川　修、岡田　紅理子				
時間割備考	1年次 日文対象				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本学の建学の精神の根幹にあるキリスト教的人間観を、本学の歴史や理念、またその基礎にある聖書やキリスト教思想、哲学的な人間理解を通して考察する。また、キリスト教的価値観に基づいた「生き方」について、自らの問題として考え、実践することを学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. 本学の教育理念および建学の精神の根底にあるキリスト教的人間観についての基本的知識を獲得し、それについて説明し論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	他者への奉仕の精神を、自らの生きる意義の追求と結びつけて理解し、自ら判断し実行することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度・リアクションペーパー45%	1／2
2	期末レポート55%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. 導入：「人間論」で何を学ぶか（崎川）
2. 特別講義：聖ジュリー・ビリアートと建学の精神（津田葵学長）
3. 特別講義：SDGsとノートルダム清心女子大学（濱西栄司）
4. キリスト教の人間理解①キリスト教を学ぶ（岡田）
5. キリスト教の人間理解②聖書の基本理解（岡田）
6. キリスト教の人間理解③旧約聖書における神と人間（岡田）
7. キリスト教の人間理解④新約聖書におけるキリストの福音（岡田）
8. イエス・キリストのメッセージ①イエスの生き方に学ぶ（山根）
9. イエス・キリストのメッセージ②神に結ばれる愛の福音（山根）
10. イエス・キリストのメッセージ③あわれみと隣人愛（山根）
11. イエス・キリストのメッセージ④アガペーの愛を生きる（山根）
12. 人間として生きる①〈考える葦〉としての人間（崎川）
13. 人間として生きる②ライフサイクルのなかの人間（崎川）
14. 人間として生きる③成熟と喪失（崎川）
15. 人間として生きる④生かされるいのち（崎川）

定期試験
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）講義内容および対応する教科書の内容等を確認し、事前の指示がある場合はそれに従って資料を読んでおく。（30分） （復習）講義のノートを整理し、各回の授業の内容に関わる文献や資料などの収集などを行う。（30分）
必携書（教科書販売）
『聖書 新共同訳』（中型ハンディバイブル旧約続編つき）,日本聖書協会,ISBN978-4-8202-1202-7 『新・私たちの人間論』ノートルダム清心女子大学キリスト教文化研究所（編）,大学教育出版,2022年,ISBN978-4-86692-199-0
必携書・参考書（教科書販売以外）
〈参考書〉 授業内で指示する。 必要に応じて適宜プリント資料等を配布する。
オフィスアワー
授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
履修全般および特別講義等についての質問・相談は崎川、各回の授業については、それぞれの担当者にて受け付ける。 sakikawa@m.ndsu.ac.jp（崎川） okada@m.ndsu.ac.jp（岡田） yamane@m.ndsu.ac.jp（山根）
留意事項
・1～3回目の授業は、学部ごとに合同で行う。4～15回目は各クラスの教室で、3名の担当教員が交代で講義を行う。詳しいスケジュールについては初回に説明する。 ・授業についての連絡は、manaba folioを通じて行う。 ・授業が一方通行にならないように毎回リアクションペーパーに意見・質問等を記入してもらう。主体的に授業に臨むこと。 ・『聖書』はできるだけ教科書販売のものを購入すること。既に所持しているものを使いたい場合は、初回授業での指示に従うこと。

キリスト教学I				単位数	2単位
授業コード	10135	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	山根　道公				
時間割備考	全学科1年次から履修可				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

死にたいと想うほどの人生の挫折の中で聖書に出会い、生きる希望の光を見出し、それを作品に表わした人たちがいる。本授業ではそうした作品を導入とし、新約聖書と遠藤周作『イエスの生涯』をテキストにして、新約聖書の福音書を中心にイエスの生涯と教えについて学び、闇の中にいる人間に希望の光を与えるイエスの福音（喜びの知らせ）とはどのような精神、価値観をもつものかを考察することで、そうしたキリスト教的精神、価値観が、現代社会にあってどのような意味をもつか、理解し、さらに自分自身の問題とどのような関わりをもつか、主体的に考える力を身につけることを目的とする。また、そうした理解に必要なキリスト教の基礎知識を修得する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1. キリスト教の原点であるイエスの生涯とその福音について説明することができる。	知識・技能
2	2. そうしたキリスト教的精神が現代社会にあってどのような意味をもつか、さらに自分の問題とどのように関わるか、自分の考えを述べることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	3. １・２のために必要なキリスト教の基礎知識を説明することができる。	知識・技能
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	・毎回課すリアクションレポートー…３０％	2
2	・期末レポート…７０％	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1．導入：現代人と聖書、 イエスの福音に出会った人たち（遠藤周作、井上洋治、三浦綾子、星野富弘、水野源三等）
2．『新約聖書』の構成・風土的背景
3．イエスの生誕、クリスマスの意味
4．洗礼者ヨハネとイエス、 メシアニズム
5．神の国の福音宣教、公生活の開始
6．奇蹟物語と慰め物語
7．イエスの祈り
8．ユダヤ教指導者層との対決、安息日論争
9．北ガリラヤへの逃避行、受難と死の予告
10. 死を覚悟したエルサレムへの旅
11. エルサレム入城と最後の晩餐
12. イエスの受難と十字架の死
13. イエスの復活顕現物語
14. 現代人とイエスの福音
15. まとめ・（期末レポートについて）

定期試験
期末レポート（課題の内容については授業で説明する）
試験のフィードバックの方法
必要に応じてマナバを通して行う。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）毎回、次の授業のテキストの範囲を伝えるので、必ず読んで、関連の聖書の箇所、疑問点などチェックしておくこと（1時間）。 （復習）期末レポートでは、各回の授業で取り上げた重要なテーマをまとめる課題を出すので、毎回授業のまとめをしておくこと（1時間）。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 遠藤周作『イエスの生涯』（新潮文庫）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聖書』
オフィスアワー
・オフィスアワーは金曜日１２：３０−１３：００。質問等の仕方については授業中に指示する。
連絡先
yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・授業が一方通行にならないようにリアクションレポートに毎回、授業の内容に対する意見・質問、またキリスト教の知識についての質問等を書いてもらい、次の授業の冒頭で応答するので、受講者は主体的に授業に臨み、自分の問題として考えること。

キリスト教学II					単位数	2単位
授業コード	10145	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	岡田　紅理子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

キリスト教の成立と発展の中核にあるのは、イエスという人物を「神の子キリスト」とする信仰である。しかし本科目のねらいは、イエスという人物がなぜ「神の子」で「キリスト（救い主）」なのか、というよりも、歴史上に実在したイエスがどのような人物であったのかを探究することにある。
具体的には、イエスが生きた当時の社会、文化、政治的背景を踏まえつつ、時に皮肉やユーモアを交えたことばと行動によって宗教的政治権力や経済的抑圧に抗い、「罪人」とカテゴライズされた人々と苦しみ・痛みを共有し続けた、喜怒哀楽の感情をもったイエスの人間像に迫り、キリスト教の原点を捉えていく。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	聖書に記された出来事の史実性／非科学性を問うのではなく、それが伝えようとするメッセージを考察できる。	思考・判断・表現力／主体性
2	イエスの言動を踏まえ、「自分にとってのイエス像」を論理的かつ具体的に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	イエスのことばと実践が、現代を生きる私たちに何を語りかけているのかを検討できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み態度　20%	1／2
2	リアクションペーパー　40%	1／2／3
3	レポート　40%	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1.　イントロダクション
2.　聖書とは
3.　イエスが生きた時代
4.　イエスの幼年期
5.　洗礼者ヨハネとの出会い
6.　イエスの自立
7.　イエスがかがみ込んだ先の人々
8.　イエスが起こした奇跡
9.　イエスが説いた神
10.　律法学者たちとイエス
11.　イエスが説いた愛と交わり
12.　危機を迎えたイエス
13.　イエスの受難と死、復活
14.　わたしにとってのイエス：ある司祭の語り
15.　わたしにとってのイエス：ある修道女の語り

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）関連する聖書箇所を調べ、読む（30分）。 （復習）講義で読んだ聖書箇所を再読し、講義内容を確認・整理する（60分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聖書（新共同訳）』もしくは『聖書（聖書協会共同訳）』（いずれも日本聖書協会） ＜参考書＞ ・佐藤望ほか『アカデミックスキルズ　大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 ・ジョン・ディア『山上の説教を生きる：八福の教えと平和創造』志村真（訳）、新教出版社、2021 ・本田哲郎『釜ヶ崎と福音：神は貧しく小さくされた者と共に』岩波書店、2015
オフィスアワー
水曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・履修者数、履修者の理解度、ゲストスピーカーのご都合等に応じて、授業形式やスケジュールに変更が生じる可能性がある。 ＊本科目は2022年度において「キリスト教学X」（2期）として開講していた科目である。そのため、同科目の単位を取得した学生は他のキリスト教学科目の履修を優先すること。仮に同科目の単位を取得した学生が本科目の履修を希望する場合は、履修登録を完了させるよりも前に、必ずメールにて相談すること。

キリスト教学III				単位数	2単位
授業コード	10155	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	崎川　修、岡田　紅理子、小林　修典、山下　美紀、山根　道公				
時間割備考	全学科1年次から履修可				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数／オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本講義では、主にクリスマスを中心として、キリスト教の典礼や宗教文化とその意義について多面的に学ぶ。とくに本学のクリスマスミサおよび関連行事の準備と実施を通じて、ミサを中心としたカトリックの祈りの文化についての理解を深め、本学の建学の精神を主体的、協働的に体得することを目指す。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ワーク

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	カトリックのミサや祈りの文化についての基本的な知識を備え、それについて説明することができる。	知識・技能
2	クリスマスの準備とミサの実施を通して、祈りの場をつくるための実践的な課題に主体的に向き合い、他者と協働してそれらを解決することができる。	思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	リアクションペーパー　　20%	1
2	クリスマスの準備とミサへの参加　40%	2
3	レポート　　40%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	実務あり

実務経験の授業への活用方法

カトリック司祭、および慈善活動を行っているNPO法人理事による特別講義を通じて、クリスマスの意義を生きた祈りと社会的実践のうちに理解することを促す。

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1. オリエンテーション（崎川・岡田）
2. キリスト教の暦と行事（岡田）
3. クリスマスの歴史と意義（山根）
4. クリスマスの音楽（崎川）
5. 特別講義：サンタクロースになるということ（NPO法人理事）
6. 文化の中のクリスマス（小林）
7. ミサと祈りの文化（岡田）
8. 愛と祈りを生きる女性（山下）
9. 特別講義：クリスマスを迎えるために（カトリック司祭）
10. クリスマスの準備（崎川・岡田）
11. 点灯式
12. ミサの準備（リハーサル）
13. ともに祝うクリスマス（ミサへの参加）
14. 片付けとグループでの振り返り
15. まとめ（崎川・岡田）

定期試験
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）授業内で行われるクリスマス行事についてのグループワークに必要な資料を準備する。（30分） （復習）配布されたプリント資料を読み、典礼や聖書の意味内容を確認する。（30分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聖書 新共同訳』，日本聖書協会 ＜参考書等＞ 授業内で指示する
オフィスアワー
授業内にて指示する　。質問・相談は随時、電子メールで受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・定員100名。 希望者多数の場合はNサポによる抽選を行う。 （受講できなかった場合でも、クリスマスミサ等の行事には参加可能） ・初回に希望を取り、クリスマス行事の準備と実施のためのグループ分けを行う。 ・各授業の中で、各グループによる準備演習を進めていく予定である。 ・行事を主体的につくりあげていく積極性を備えた学生の受講を求める。

キリスト教学IV				単位数	2単位
授業コード	10165	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	西井　麻美				
時間割備考	配当年次1は食品栄養学科のみ　2年次以降食品以外も履修可				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

現代社会に対して、カトリックはどのように向き合うことを勧めているだろうか。現代社会の様々な課題（女性の社会参加と教育、持続可能な社会づくり、平和・多文化共生など）に関わって、出されているカトリックのメッセージに着目しながら、これからの社会を生きる指針について考える。文献・資料として、教皇のメッセージなどを参照する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	キリスト教の価値観を自らの生活に生かす省察ができる。	思考・判断・表現力／主体性
2	現代にひきつけてカトリックの精神について説明できる。	知識・技能
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業態度……50%	1
2	課題提出（レポート）……50%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　オリエンテーション
2　聖書に描かれた女性
3　キリスト教精神を読み解く：聖母マリア
4　キリスト教精神を読み解く：神、天使
5　キリスト教精神を読み解く：霊的存在
6　キリスト教精神を読み解く：諸聖人
7　たとえ話から学ぶ：天地創造
8　たとえ話から学ぶ：命　男女創造
9　たとえ話から学ぶ：知恵
10　神の慈しみが注がれている被造界
11　開発に関わるカトリックのメッセージ
12　キリスト教精神を読み解く：アシジの聖フランシスコ
13　現代社会を取り巻く課題とキリスト教の考え方
14　家族とキリスト教の考え方
15　若者に関わるカトリックのメッセージ

定期試験
定期試験（レポート）
試験のフィードバックの方法
留意点について解説する。(資料提示等)
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）テーマについて、関連する資料・文献を各自で調べること。（約1時間） （復習）授業で考えたこと、学んだことを整理しながら、さらに考えたことをポートフォリオにしてまとめること。（約1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書等＞ 『聖書』
オフィスアワー
授業終了後（長時間の相談が必要な場合は、日時を打ち合わせる）
連絡先
マナバ確定後、マナバに連絡用スレッドを立てる。マナバ確定前のみmnishii@m.ndsu.ac.jp（マナバ確定後はこのアドには連絡しないこと。色々な授業やその他の連絡が多数届き、混乱が大きいため。）
留意事項
履修定員を70名を上限とし、登録順（申し込み順）で登録者を決定する。マナバフォリオを活用する。

キリスト教学V				単位数	2単位
授業コード	10175	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	岡田　紅理子、小林　修典、津田　葵、片山　裕之				
時間割備考	配当年次1は食品栄養学科のみ　2年次以降食品以外も履修可				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	複数／オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

同じ宗教・教派といえども、国・地域によって信仰の実践や表現のありようはさまざまである。それが顕著にあらわれるのは、宗教の祝祭日においてである。本科目では、キリスト教信仰の根幹にある、「イエス・キリストの復活」という出来事を記念するイースター（復活祭）に特に注目する。
特別講義を含むアジア、中東、ラテンアメリカにおける事例報告とグループ・ディスカッションにより、その土地の文化、社会、歴史状況のなかで育まれてきた多様な宗教実践への理解を深める。また、イースターエッグの製作を通して「イエス・キリストの復活」に見出されてきた意義を体験的に考察できるようになることを目指す。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	宗教の祝祭日が担う意義を論理的かつ具体的に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	多様な宗教の祝祭日について、信仰者の宗教に対する思いの共通性・関連性を考察できる。	思考・判断・表現力／主体性
3	授業に関連する事柄をインターネットに頼らず書籍・論文から主体的に調べ、課題に反映できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	イースターエッグの意味を理解しながら、たまごをカラフルにデコレーションできる。	知識・技能／思考・判断・表現力
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み態度（リアクションペーパー、ディスカッション、発表）　40%	1／2
2	中間レポート　30%	1／2
3	期末レポート・作品　　30%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

新制作協会会員、日本美術家連盟会員、岡山県展審査会員の経験から絵画指導にあたる。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1.　イントロダクション、学長基調講演（津田学長）
2.　世界の宗教行事、カトリック教会暦（岡田）
3.　「イエス・キリストの復活」とは（岡田）
4.　芸術にあらわれるキリスト教の祝祭日：クリスマス（小林）
5.　芸術にあらわれるキリスト教の祝祭日：聖母の被昇天（小林）
6.　ディスカッション（1～5を踏まえた討論）（小林）
7.　台湾キリスト教史（岡田）
8.　台湾先住民族が催すキリスト教の祝祭（岡田）
9.　特別講義：フィリピン（学外講師）
10.　特別講義：インド（学外講師）
11.　特別講義：アルジェリア（学外講師）
12.　特別講義：ブラジル（学外講師）
13.　ディスカッション（7～13を踏まえた討論）（岡田）
14.　イースターエッグ製作（片山）
15.　まとめ（片山・小林・岡田）

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）講義・レジュメで紹介された事柄について書籍を調べ、読む（60分） （復習）講義内容を確認、整理するとともに、自分の考えをメモに残す（30分）。 　作品制作を行うため、十分な準備をして臨むことが求められる。準備、授業内容は授業時に通知する。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜参考書＞ 佐藤望ほか『アカデミックスキルズ　大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 ＊そのほかは授業時に説明またはレジュメにおいて示す。
オフィスアワー
水曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp katayama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・受講者を上限40人とする。 ・manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・高校までのような体系的知識の伝授を目指す科目ではないため、受動的に授業に臨むのではなく、学習内容について主体的に調べ、考え、言語化する姿勢が求められる。 ・ゲストスピーカーのご都合や履修者の理解度・関心度の状況などにより、授業スケジュールや講義担当者に変更が生じる可能性がある。

キリスト教学VI				単位数	2単位
授業コード	10185	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2023年度第１期
担当者氏名	小林　修典、津田　葵、岡田　紅理子				
時間割備考	全学科1年次から履修可				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	複数／オムニバス				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

・本授業のテーマは、「グローバル社会における教育と社会活動ーカトリック教会の奉仕の現実」である。
・カトリック教会がグローバル化の時代の社会の現実的な問題にどのように取り組んでいるかを、
実例を通じて学んでいく。とくに、教育と社会活動に注目する。
・国際的な奉仕活動のあり方と、その背景にあるカトリック教会の社会教説の考え方について、
１）本大学の設立母体であるナミュール・ノートルダム修道女会の世界各地での活動と、２）日本での
カトリック教会での外国人支援という、グローバルとローカルな例を通して知る。どのような問題が存在し、
それに対してどのような支援がなされえているかに注目する。この学びを通じて、グローバル社会の問題に
カトリック教会が果たしている役割を知るとともに、さまざまな課題に対して、私たち一人ひとりがどのように
貢献できるかを考える。

アクティブラーニングの実施内容	グループ・ディスカッション

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	カトリック教会およびその一部としてのナミュール・ノートルダム修道女会の、社会問題への取り組みとその伝統について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	グローバル社会の問題について、多角的な視点から、具体例を交えて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	身近な地域社会における国際的な社会奉仕のありかたや意義について、具体例を交えて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	平常点　（ディスカッションへの参加・課題）　30%	1／2／3
2	課題レポート　30%	1／2／3
3	期末レポート　40%　（定期試験時に提出する。）	1／2／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	英語　（外国の講師たちの講義。授業予定一覧・留意事項を参照）

授業予定一覧

※は特別講師

I　グローバル社会でのカトリック教会の社会活動
①　基調講演　グローバル化とカトリック教会　　Sr. 津田葵
②　グローバル社会の諸課題　　岡田紅理子
③　カトリック教会の社会教説　　小林修典

II　ナミュール・ノートルダム修道女会の世界的な活動
④　現代社会における聖ジュリー・ビリアートの精神ー宣教の特徴　　小林
⑤　ナミュール・ノートルダム修道女会の使命と活動　国連・ジュビリ-基金　　小林
⑥　世界各地での宣教活動（１）　アフリカ諸国　※Sr. Ezeonu　（英語）
⑦　世界各地での宣教活動（２）　北アメリカ（移民の支援・教育）※Sr. Prefontaine　（英語）
⑧　世界各地での宣教活動（３）　南アメリカ　※Sr. Spires （英語）
⑨　ディスカッション　（④～⑧の授業のトピック）　Sr.津田、小林、岡田

III　日本での教育・社会活動
⑩　ノートルダム清心女子大学の使命　　小林
⑪　外国人のための福音宣教　　※Fr. Bordon（カトリック岡山・津山教会）
⑫　カトリック教会での外国人支援　※Fr. Loi（カトリック岡山南教会）
⑬　多文化共生社会の日本語教育　※中島正恵（岡山外語学院）、※佐藤恭子（岡山外語学院）
⑭　ディスカッション　（⑩～⑬の授業のトピック）　Sr.津田、小林、岡田
⑮　まとめ　Sr.津田、小林、岡田

定期試験
期末レポート（定期試験時に提出する）
試験のフィードバックの方法
レポート提出後に講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
前回の講義内容を理解したうえで、毎回の講義に臨む。（30分） 授業後は、講義内容を確認、整理し、ディスカッションに備える。（60～90分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
１）外国のシスタ-たちによる講義は英語で行われる。必要に応じて、その前後に、日本語による解説が加えられる。 ２）ディスカッションでは、講義で扱うトピックや問題について、学生が感想や意見を述べあう。 ３）日頃から、グローバル社会の動向に対して関心を持ち、問題意識を高めて授業に臨むことが求められている。

キリスト教学VII					単位数	2単位
授業コード	10205	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小林　修典					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

・本授業のテーマは、「日本文化とキリスト教」である。
近代日本の文化に、キリスト教はどのようにかかわってきたのかを考察する。
明治から昭和にかけての時代について、具体的な例を通して考える。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日本の文化のさまざまな分野で見られるキリスト教とのかかわりについて、具体的に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2		
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題レポート　30%	1
2	課題研究発表　30%	1
3	期末レポート　40%	1
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

I　近代日本とキリスト教
①　キリスト教史

II　日本語による聖書と讃美歌・聖歌
②　聖書の翻訳
③　聖書の大正改訳
④　讃美歌・聖歌

III　伝統的文学形式で表現された信仰
⑤　和歌
⑥　漢詩、俳句

IV　文学とキリスト教
⑦　切支丹・南蛮趣味の文芸
⑧　ディスカッション

V　岡山のキリスト教
⑨　キリシタン史の岡山
⑩　石井十次をめぐる人々

VI　児童文学とキリスト教
⑪　「フランダースの犬」の翻訳の背景
⑫　平沢克己の童話
⑬　ディスカッション

VIII　まとめ
⑭　課題研究の発表　（前半）
⑮　課題研究の発表　（後半）

定期試験
期末レポート（定期試験時に提出する）
試験のフィードバックの方法
レポート提出後に講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
前回の講義内容の理解を確認したうえで、毎回の講義に臨む。（30分） 授業後は、講義内容を確認、整理し、ディスカッションや、課題レポート・課題研究に備える。（60分～90分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて、指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp　（小林）
留意事項
・主体的に予習・復習を行うことが望まれる。配布資料を各自で読み込んでおくことが必須である。

キリスト教学VIII					単位数	2単位
授業コード	10215	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	岡田　紅理子					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

わたしたちが生きているこの社会は、背景、信条・価値観、アイデンティティなどが異なる多様な人々によって構成されている。しかし社会の制度は、多数派か少数派かという以外にも、優勢・劣勢、中央・周縁、支配・被支配といった関係性を備えていることがある。
本科目のねらいは、SDGsにおける「誰一人取り残さない」という原則とも通底するイエスの生涯、「隣人愛」・「神の国」というキリスト教の思想・概念を手がかりとして、社会を構成する一員として、多様な人々と生きていくための人間そして社会のあり方を探究することにある。講義では、日本において「マイノリティ」を自認したり、そのように括られたりする人々の生（歴史と現状）を通して、社会にある抑圧や排除の問題への理解を深めていく。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	自分とは異なる他者がいることを認識し、また他者の生を多角的に考察し、論理的かつ具体的に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	取り上げたテーマ間の関連性と共通性を考察できる。	思考・判断・表現力／主体性
3	授業に関連する事柄をインターネットに頼らず書籍・論文から主体的に調べ、課題に反映できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	偏見差別の問題をキリスト教信仰と関連させて考察できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み態度　20%	1／2／4
2	リアクションペーパー　40%	1／2／3／4
3	レポート　40%	1／2／3／4
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1.　イントロダクション
2.　「罪人」とマイノリティ
3.　「隣人」とは
4.　「神の国」と共生社会
5.　特権と抑圧、差別を考える
6.　アイヌ
7.　ケガレと「部落」
8.　人間の「優劣」と「障がい」
9.　文明言説とハンセン病
10.　菊池事件から考える律法と憲法・法律
11.　ジェンダーとセクシュアリティ
12.　外国にルーツを持つひとびと
13.　在日コリアン、華人・華僑、「無国籍」者
14.　中国残留日本人
15.　まとめ

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）新聞でテーマに関連する昨今の記事を調べ、読む（30分） （復習）講義内容を確認、整理するとともに、紹介された書籍を読む（60分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聖書（新共同訳）』もしくは『聖書（聖書協会共同訳）』（いずれも日本聖書協会） ＜参考書＞ 佐藤望ほか『アカデミックスキルズ　大学生のための知的技法入門（第3版）』慶應義塾大学出版会、2020 ＊そのほかは授業時またはレジュメにおいて示す。
オフィスアワー
水曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・本科目の履修にあたっては、今年度1期「キリスト教学II」ないしは昨年度2期に開講した「キリスト教学X」の単位を取得しておくことが望ましい。 ・履修者数によって、ディスカッションやプレゼンテーションの場を設けることがある。また、履修者の理解度に応じて、授業スケジュールに変更が生じる可能性がある。 ・授業は、講義とあわせて視聴覚教材（ドキュメンタリー、講演会映像等）を用いながら進められる。 ＊本科目は2022年度「アジアと平和を考える」（1期）と内容が重なる。そのため、同科目の単位を取得したものの、本科目の履修を希望する学生は、履修登録を完了させるよりも前に、必ずメールにて相談すること。

キリスト教学IX				単位数	2単位
授業コード	10225	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	崎川　修				
時間割備考	配当年次1は食品栄養学科のみ　2年次以降食品以外も履修可				
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

「福音書に学ぶ〈対話としての信仰〉」
キリスト教の根本的な教えである「隣人愛」の本質を見つめながら、いかにして自己の人生を「他者との対話」の内に深め、歩むことが出来るかを考える。福音書におけるイエスの生き方を基本にしつつ、日常的、臨床的な視点との往復を通じて、信仰や祈りの中に生きることのリアリティに触れてほしい。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1.　キリスト教と聖書についての基礎的な知識を身につける。	知識・技能
2	2.　新約聖書、とくに福音書の読解を通じて、そこで示されている「愛」や「いのち」についてのメッセージを理解し、それに基づいた倫理的な判断を行うことができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	3.キリスト教的な生き方の本質を、自分自身の人生の問題に照らして考察し論じることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	受講態度、リアクションペーパー:50%	1／2
2	期末レポート：50%	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

１．導入：隣人とは誰のことか
２.「よきサマリア人のたとえ」を読む
３．イエスとその時代
４．福音書のイエス像
５.「サマリアの女」を読む
６．イエスと対話的霊性
７．イエスにおける「死の準備」
８.「ラザロの死」を読む
９．復活とは何か
10. 聖性と神秘
11.　回心という経験
12. 神との対話
13. クリスマスのメッセージ
14. 祈りの方法論
15. まとめ

定期試験
期末レポートを提出してもらう。内容については授業内で指示する。
試験のフィードバックの方法
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）講義予定に従って、該当する聖書の箇所と配布資料に目を通しておく。（30分） （復習）授業内で扱った聖書の箇所を、その前後を含めて読み直し、ノートをまとめる。（30分）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聖書 新共同訳』，日本聖書協会 その他プリントを随時配布する。 ＜参考書等＞ 授業内で随時紹介する。
オフィスアワー
授業内で指示する。質問・相談は随時メールで受け付ける。
連絡先
sakikawa@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・受講者には毎回授業内で、もしくはmanabaのレポートフォームから、リアクションの提出が課される。リアクションの未提出が5回を超える場合には、「不可」となる場合がある。 ・レポートにおいてネットや文献からの無断流用が認められた場合は、「不可」となるので注意すること。

キリスト教学X				単位数	2単位
授業コード	10235	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	岡田　紅理子				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

キリスト教は、社会のなかで社会とともに歩んできた。しかし、その道のりは決して平坦なものではなく、国家権力と緊密な関係を保っていた時代もあった。その後、植民地・帝国主義時代や世界大戦を経た時代の変革期を迎え、カトリック教会は信仰の視点に立って、人間社会に対する自らの使命を考察してきた。
本科目では、教皇の公文書である回勅、書簡、勧告のほか、公会議の憲章をはじめとするカトリック教会の諸文書を参照しながら、現教皇フランシスコが2019年に来日した際のテーマ「すべてのいのちを守るため～Protect All Life」に顕著にあらわれているカトリック教会の倫理的価値観を学び、現代社会の社会、環境、生命にかかわる諸問題を考察していく。

アクティブラーニングの実施内容	

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	キリスト教倫理を単に「きれいごと」と切り捨てることなく、それが現代社会に果たしうる役割を考察できる。	思考・判断・表現力／主体性
2	自分とは異なる多様な他者いることを認識し、社会を多角的に考察できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	社会、環境、生命に対するキリスト教の倫理的価値観を論理的かつ具体的に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	授業への取り組み態度　20%	1／2／3
2	ディスカッションおよびリアクションペーパー　40%	1／2／3
3	レポート　40%	1／3
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目	

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業	

授業予定一覧

1.　イントロダクション
2.　キリスト教が示す倫理
3.　社会①教育と労働
4.　社会②開発と格差、貧困
5.　社会③戦争、暴力と平和
6.　社会④差別と基本的人権
7.　社会⑤他宗教との対話
8.　環境①自然と生きる人間
9.　環境②自然と科学技術
10.　生命①家庭と生殖
11.　生命②医療技術と人間の尊厳
12.　生命③自死
13.　生命④尊厳死と安楽死
14.　生命⑤死刑制度
15.　まとめ

定期試験
レポート
試験のフィードバックの方法
メールでの質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）新聞や雑誌でテーマについて関連する記事を読む（30分）。 （復習）講義内容を整理するとともに、講義・レジュメで参照した聖書や公文書、紹介した書籍を読み、まとめる（60分）。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 『聖書（新共同訳）』もしくは『聖書（聖書協会共同訳）』（いずれも日本聖書協会） ＜参考書＞ 教皇フランシスコ『回勅　ラウダート・シ：ともに暮らす家を大切に』カトリック中央協議会、2016 日本カトリック司教団『いのちへのまなざし（増補新版）』カトリック中央協議会、2021
オフィスアワー
水曜3限あるいはアポイントメント
連絡先
okada@m.ndsu.ac.jp
留意事項
・manaba folioを利用するので、各自必ずリマインダ登録しておくこと。 ・本科目の履修にあたっては、今年度1期「キリスト教学II」ないしは昨年度2期に開講した「キリスト教学X」の単位を取得しておくことが望ましい。 ・履修者数や履修者の理解度に応じて、授業形式やスケジュールに変更が生じる可能性がある。 ・ただ自分の知識、感覚・感情に捉われたり流されたりすることなく、講義で扱われた事柄を突き詰めて考えようとする姿勢が求められる。 ＊本科目は2022年度において「キリスト教学II」（1期）として開講していた科目である。そのため、同科目の単位を取得した学生は他のキリスト教学科目の履修を優先すること。仮に同科目の単位を取得した学生が本科目の履修を希望する場合は、履修登録を完了させるよりも前に、必ずメールにて相談すること。

キリスト教学XI					単位数	2単位
授業コード	10245	科目ナンバリング	100B1-1234-o2	開講年度学期	2023年度第２期	
担当者氏名	出村　和彦					
時間割備考	配当年次1は食品栄養学科のみ　2年次以降食品以外も履修可					
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

アウグスティヌス(354-430)の生涯を通じた探究、特に後半生の司教としての働きを通じて見えてくるキリスト教の特徴的な観点とその後の西欧や日本のキリスト教思想に与えた影響をわかりやすく講義する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	アウグスティヌスの思想を通じて、キリスト教の特徴的な観点を理解できるようになること。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	アウグスティヌスや聖書が探求した基本的キリスト教的価値観を参考に、主体的に生きることの意義を深く追求することができるようになること。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	毎回の正確な知識の確認と主体的な探求の試みを示す積極的応答コメント・小レポート　30%	1／2
2	教科書や講義内容の正確な理解とそれに基づく主体的な探求を論理的に叙述した中間レポートと期末レポート合わせて　70%	1／2
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　はじめに：授業の進め方：真の宗教を求めて　：アウグスティヌスの探究の人生
2　アウグスティヌスの探究とキリスト教との出会い
3　アウグスティヌスから学んで（１）愛の秩序　『告白録』キリスト教文化の指針
4　 アウグスティヌスから学んで（2）永遠と時間：神の国
5　アウグスティヌス時代の教会の状況（1）：ドナティスト分派と教会の一致
6　司教アウグスティヌスの取り組み：キリスト教徒の生活
7　アウグスティヌス時代の教会の状況（２）ペラギウス論争
8　アウグスティヌスと聖書：キリスト教の暦（１）
9　アウグスティヌスと聖書：クリスマスに向けて（２）マタイ福音書
10アウグスティヌスと聖書：クリスマスに向けて（３）ルカ福音書
11　アウグスティヌス『三位一体論』『神の国』『エンキリディオン』
12　信仰・希望・愛　キリスト教で信仰する神は父と子と聖霊の三位一体の神である
13　希望を示す〈主の祈り〉：愛の掟
14　アウグスティヌスの死生観：老いと死への向き合い
15　アウグスティヌスの著作の保存と伝播と受容　まとめ

定期試験
期末試験（レポート）
試験のフィードバックの方法
毎回のレスポンスやレポートで出た共通の質問等は次回の授業やマナバで回答する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
次の授業までに読むべき教科書の箇所を指定するのでそこを読んだ上で授業に臨むこと。毎回の授業で、その日の内容に関して参考図書、参考URLを紹介する。興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。特にレポートには、毎回の小レポート応答と日々の文献研究で深めたテーマに関してより多角的に、発展的な論述を求める。付け焼き刃では間に合わないので、毎回授業を真剣に聴くと共に、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい。
必携書（教科書販売）
＜必携書＞ 『アウグスティヌス「心」の哲学者』，出村和彦，岩波新書新赤版1682、岩波書店 ISBN978-4-00-431682-4
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業やマナバで指示する
オフィスアワー
授業の前後に質問を受け付ける。
連絡先
demura@okayama-u.ac.jp
留意事項
教科書指定箇所を読んで授業に備えること。また関連資料もGoogle Driveにアップするので指定箇所を学習するように努めてください。

キリスト教学XII					単位数	2単位
授業コード	10255	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	杉山　博昭					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

イエスの教えの中心は，愛である。「隣人を愛せよ」が第一の掟である。隣人とは，誰かという律法の専門家の質問に対して，イエスはよきサマリア人のたとえを話された。私にとっての隣人は誰かではなく，隣人になりなさいとの教えであった。そのことを、実際に隣人愛に生きたキリスト者の行動の軌跡をみるなかで理解する。とくに岡山に関係した動きとカトリック福祉の動きを重視する。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	社会福祉の理念について、実践の歩みを通じて説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
2	社会福祉の先駆者の功績について説明することができる。	知識・技能／主体性
3	社会福祉とキリスト教との関係について説明することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力
4	社会福祉実践やボランティア活動への関心を高め、自ら取り組むことができる。	思考・判断・表現力／主体性
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	授業時の課題　30%	1／2／3
2	レポート　　70%	1／2／3／4
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目　実務あり

実務経験の授業への活用方法

特別養護老人ホームや障害者作業所で高齢者や障害者の支援に携わった経験から、福祉実践における理念や価値が現場の実践において大切であることを具体的な事例などから説明し、理念と実践を結びつけた社会福祉論を提示していく。

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1　社会福祉とキリスト教
2　ド・ロ神父と長崎の女性たち
3　石井十次と岡山孤児院（１）　孤児院の創設と展開
4　石井十次と岡山孤児院（２）　石井の思想とその意義
5　石井十次と岡山孤児院（３）　児童福祉に継承するもの
6　アリス・アダムスと岡山博愛会
7　岡山出身のキリスト教社会事業家（１）山室軍平
8　岡山出身のキリスト教社会事業家（２）留岡幸助の生涯
9　岡山出身のキリスト教社会事業家（３）留岡幸助と家庭学校
10　福祉を支える 大原孫三郎
11　知的障害者とともに　石井亮一・筆子
12　カトリックによるハンセン病者への支援
　　テストウィド神父　岩下壮一　井深八重
13　賀川豊彦の活動
14　視覚障害者の福祉　岩橋武夫　ヘレン・ケラーの来日
15　キリスト教と保育　野口幽香

定期試験
社会福祉実践者について探求したレポートを提出する。
試験のフィードバックの方法
授業終了後も、メール等での質問を受け付ける。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
取り上げる人物に関する参考文献を、事前または事後に各自で読むこと。人物のに関する情報を文献やインターネット等で収集しておくこと。これら事前・事後の学習を各1～2時間程度行うこと。
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
＜必携書＞ 教科書は使用しない。授業時にプリントを添付する。 ＜参考書等＞ 『聖書』（日本聖書協会の新共同訳または聖書協会共同訳が望ましいが、他でも可）
オフィスアワー
オフィスアワー　火曜日　2限 質問は随時電子メールで受け付ける。
連絡先
sugiyama@post.ndsu.ac.jp
留意事項
人間生活学科社会福祉士課程の学生は、受講することが望ましい。もちろん、他の学生の受講も歓迎する。 教室定員を超過した場合は、先着順

キリスト教学XIII					単位数	2単位
授業コード	10285	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小林　修典					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	１講義					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

日本の社会において、子どもたちの人間形成と教育に、キリスト教はどのようにかかわってきたのかを概観する。
日本の児童文化の歩みのうちに、キリスト教精神やキリスト教的ヒューマニズムを探っていく。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	1　さまざまなジャンルの児童文化とキリスト教とのかかわりについて説明ができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	2　聖書物語が子どもにわかるように説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題レポート　20%	1／2
2	期末レポート　30%	1／2
3	期末試験　50%	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

①　児童文化とキリスト教
②　日本における幼稚園教育の歴史的展開

③　聖書物語に親しむ
④　旧約聖書　世界の創造、アブラハム
⑤　旧約聖書　イサク、ヨセフ、契約の箱
⑥　旧約聖書　サウル、ダビデ、ソロモン
⑦　旧約聖書　預言者たち、トビト、ヨブ、ヨナ

⑧　カトリックの伝統と宗教行事
⑨　子どものための聖人伝
⑩　クリスマスと児童劇

⑪　キリスト教児童文学
　日本で読まれる西洋の名作（１）　The Happy Prince
⑫　The Happy Prince　とキリスト教精神
⑬　日本で読まれる西洋の名作（２）　The Selfish Giant

⑭　日本のキリスト教児童文学　（１）　「天までとどけ」
⑮　日本のキリスト教児童文学　（２）　「天使とくつした」

定期試験
期末レポートは期末試験時に提出する。
試験のフィードバックの方法
試験終了後に、マナバフォリオを通じて試験の解説を行う。 レポートは、提出後に講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・事前に指定された配布資料または教科書を読んでから、毎回の授業に臨む。（1時間～3時間） ・復習として、課題を振り返り、理解を確かにし、課題レポート・期末レポートおよび試験に備える。　（1時間）
必携書（教科書販売）
脇田明子『旧約聖書物語』女子パウロ会
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて印刷物を配布する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・自主的かつ積極的に予習・復習をすることが望まれる。とくに、教科書や配布資料を読み込んでおくことが重要である。

キリスト教学XIV					単位数	2単位
授業コード	10290	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	小林　修典					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）	２演習					
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

・本授業のテーマは「日本の教育とキリスト教ー自校史研究の試み」である。明治以来、時代の変遷とともに
日本の教育にキリスト教がどのような役割を果たしてきたかを、具体的な資料の分析をもとに考察する。
・授業は次の2つのサブテーマから成る。
１）明治期から戦後の時代までの、キリスト教と日本の教育との関連についての歴史的概観。
２）具体的な例としての、ノートルダム清心女子大学の成立とその変遷（自校史）。
・本学の歴史に関する資料として、アーカイブ資料（例、大学および学生の発行したジャーナルなど）を分析し、
教育理念、ナミュール・ノートルダム修道女会のシスターたちの役割、学生の教育体験（例、卒業論文テーマにみる
学生の関心、留学など）、学生生活（行事、クラブ活動、就職など）について理解を深める。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー （１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	日本の教育に果たしてきたキリスト教の役割について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	ノートルダム清心女子大学の歴史と伝統について説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	平常点　（ディスカッションへの参加、アーカイブ資料の分析・報告）30%	1／2
2	課題レポート　30%	1／2
3	期末レポート　40%　（定期試験時に提出する。）	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

I　日本の教育とキリスト教
①　イントロダクション　　キリスト教の人間観と教育
②　近代日本のキリスト教史
③　幼児教育とキリスト教
④　日本のキリスト教系学校
⑤　近代日本の女子教育
⑥　日本のキリスト教女子教育
⑦　ディスカッション

II　自校史研究（ノートルダム清心女子大学）
⑧　岡山のキリスト教の伝統と女子教育
⑨　聖ジュリー・ビリアートとナミュール・ノートルダム修道女会の活動
⑩　ノートルダム清心女子大学の成立と発展
⑪　ノートルダム清心女子大学のアーカイブ資料の紹介
⑫　ノートルダム清心女子大学の教育と学生生活
⑬　ディスカッション
⑭　学生によるアーカイブ資料の分析・報告（前半）
⑮　学生によるアーカイブ資料の分析・報告（後半）

定期試験
期末レポート（定期試験時に提出する）
試験のフィードバックの方法
レポート提出後に講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・前回の講義内容を理解したうえで、毎回の授業に臨む。予習として配布資料を読む。（30分） ・授業後は、講義内容を確認し、ディスカッションやレポートに備える。（30分） ・期末に行うアーカイブ資料の分析とその口頭発表のための準備を、余裕をもって進める。（計４～５時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
必要に応じて指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
１）⑪回目の授業では、本学の広報室の協力を得て、教室外（学内）でのアーカイブ資料の説明を受ける。 その後、キリスト教文化研究所において、指定された期間内（授業時間外）に、アーカイブ資料を各自が直接閲覧して分析すべき資料を選び、それに基づいて期末に口頭発表を行う。 よって、これらには必ず出席することが求められている。 ２）⑦回目および⑬回目の「ディスカッション」では、講義で扱うトピックや問題について、学生が感想や意見を述べあう。 ３）⑭回目および⑮回目の「学生によるアーカイブ資料の分析・報告」では、大学アーカイブの資料（上記1を参照）を学生が各自で調査した結果をクラスに報告する。 方法については授業中に説明する。 ４）この授業の定員は20名とする。「N先着」により受講可能者を決定する。

キリスト教学XV				単位数	2単位
授業コード	10300	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第２期
担当者氏名	小林　修典				
時間割備考					
授業形態（主）	１講義				
授業形態（副）	２演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）					

本授業の概要

本授業で探求するテーマは「英語文化とキリスト教」である。イギリス、アメリカ、フィリピンでのキリスト教の伝統を取り上げる。それぞれの社会でのキリスト教の歴史と、宗教文化のありかたを文献の講読を通して考察し、キリスト教の歴史とキリスト教文化について理解を深める。その過程で、キリスト教や聖書についての知識を確認する。

アクティブラーニングの実施内容

到達目標		対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	英語文化圏のキリスト教の歴史について具体的に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	英語文化圏のキリスト教文化について具体的に説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3		
4		
5		

成績評価の基準		対応する到達目標の番号
1	課題レポート　３０％	1／2
2	課題研究の発表　３０％	1／2
3	期末レポート　４０％	1／2
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

I　イントロダクション
１　身近な聖書の英語表現
２　英語によるキリスト教の基礎知識

II　イギリス
３　イギリス教会史①　国教会の成立
４　イギリス教会史②　宗教改革と国教会の再建
５　イギリスのキリスト教の伝統
６　イギリスの文化とキリスト教
７　ディスカッション

III　アメリカ合衆国
８　アメリカ史とキリスト教①　建国と信仰
９　アメリカ史とキリスト教②　諸教会と信仰の諸形態
10　アメリカの文化とキリスト教

IV　フィリピン
11　フィリピン史とカトリック教会
12　フィリピン社会・文化とキリスト教
13　ディスカッション

V　課題研究
14　課題研究の発表の準備
15　課題研究の発表

定期試験
期末レポート（課題研究の成果をレポートにまとめたもの）
試験のフィードバックの方法
レポートを提出後、講評する。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
・指定された教材を読んでおき、授業に臨む。（1時間） ・授業後は、授業内容を確認、整理し、ディスカッションと課題レポート、課題研究に備える。（1時間）
必携書（教科書販売）
必携書・参考書（教科書販売以外）
授業において適宜指示する。
オフィスアワー
オフィスアワーは授業中に指示する。
連絡先
shusuke@post.ndsu.ac.jp
留意事項
・教材について 各国のキリスト教や教会の歴史についての教材はおおむね日本語によるものである。 それぞれの社会の文化にかんする教材には英語によるものもある。 ・高度な英語力は前提としていない。

キリスト教学XVI					単位数	2単位
授業コード	10310	科目ナンバリング	100B1-2340-o2	開講年度学期	2023年度第１期	
担当者氏名	山根　道公					
時間割備考						
授業形態（主）	１講義					
授業形態（副）						
担当形態	単独					
研究分野（大学院）						

本授業の概要

「愛は決して滅びない」「神は耐えられないような試練にあわせることはない」といった言葉は、新約聖書の中のパウロの書簡の言葉である。そうしたパウロの言葉と共に新約聖書の中の使徒言行録を中心に読むことによって、イエスの死後、イエスを見捨てて逃げた弱い弟子たちが、イエスをキリスト（救い主）と呼び、信念をもった使徒となり、原始キリスト教が成立し、さらにキリスト教徒を迫害していたパウロが回心して異邦人伝道の使徒となることでキリスト教がヘレニズム世界に広がるという歴史的展開を学ぶ。そして弱かった弟子たちが何故に強い信念の使徒に変貌できたのかを考察する。さらに、関連する聖書およびキリスト教についての基礎的知識を学ぶ。

アクティブラーニングの実施内容

	到達目標	対応するディプロマポリシー（１知識・技能/２思考・判断・表現力/３主体性）
1	イエスの死後、弱者であった弟子たちや迫害者であったパウロが信念を持った使徒となり、キリスト教がヘレニズム世界に広がる歴史的展開について説明できる。	知識・技能
2	パウロの書簡の言葉から愛や苦しみの連帯など生きる意義について主体的に考えることができる。	思考・判断・表現力／主体性
3	関連する聖書およびキリスト教についての基礎的知識について説明できる。	知識・技能
4		
5		

	成績評価の基準	対応する到達目標の番号
1	毎回のリアクションレポート（授業および関連する聖書、キリスト教について意見、質問、感想等を書く）…３０％	1／2／3
2	期末レポート…７０％	1／2／3
3		
4		
5		

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の授業への活用方法

日本語以外の言語による授業

授業予定一覧

1．導入：現代人とパウロの言葉
2．『新約聖書』の使徒言行録と書簡の概説・風土的背景
3．原始キリスト教の出発
4．ユダヤ教徒からの迫害、ステファノの殉教
5．迫害者パウロの回心
6．原始キリスト教におけるエルサレムとアンティオキア
7．パウロの第1次伝道旅行
8．パウロの第2次伝道旅行
9．パウロの第3次伝道旅行とローマへの旅
10．ペトロの殉教、パウロの殉教
11．ユダヤ戦争と原始キリスト教
12．原始キリスト教の発展
13．原始キリスト教と福音宣教
14．パウロの書簡より、愛の賛歌、苦しみの連帯
15．まとめ

定期試験
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必要に応じてマナバで伝える。
準備学習（予習・復習）に必要な学修内容・時間
（予習）毎回、次の授業のテキストの範囲を伝えるので、必ず読んで、疑問点などチェックしておくこと。（１時間） （復習）期末レポートでは、各回の授業で取り上げた重要なテーマをまとめる課題を出すので、毎回授業のまとめをしておくこと。（１時間）
必携書（教科書販売）
遠藤周作『キリストの誕生』（新潮文庫）
必携書・参考書（教科書販売以外）
『聖書』
オフィスアワー
オフィスタワーは金曜日１２：３０−１３：００。質問、相談等は授業の後でも、メールでも随時、応じます。
連絡先
yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
授業が一方通行にならないようにリアクションレポートに毎回、授業の要点、意見・質問等を書いてもらう。受講者は主体的に授業に臨むこと。